

令和2年度復職支援研修 講義・演習6月コース実施報告

1. 目的

就業を希望する者に対し、最近における看護知識・技術を修得させ、未就業看護職に再就職を促すとともに就業の継続支援を目的とする。

2. 開催日

講義・演習コース1：令和2年6月4日（木）～6月5日（金）

3. 開催場所

宮崎県看護等研修センター

4. プログラム

(講師敬称略)

回数	午前	午後
1日目	開講式 9:20 看護の動向 (9:30～10:30) 看護に関係する社会環境の変化や最近の看護に関する動き等を学ぶ 宮崎県ナースセンター長 復職支援講座 (10:40～11:20) ・職場の選び方・履歴書の書き方・職務経歴書の書き方・面接の受け方 ナースセンター担当職員 自己紹介・意見交換 (11:20～12:00) 受講生間の交流を深め、再就業への意欲をさらに高める。	感染管理 (13:00～15:00) 感染の知識を深め、正しい感染予防の実際を学ぶ。感染予防の基本的技術を習得する。 国立病院機構宮崎東病院 感染管理認定看護師 大浦 恵
		ナースセンター登録の支援
2日目	フィジカルアセスメント (9:30～12:00) 身体機能面から見た急変時フィジカルアセスメントのとらえ方とエビデンスに基づいた呼吸器・循環器について理解する 県立日南病院 集中ケア認定看護師 堀口彰一	医療事故防止の現状と課題 (13:00～15:00) 身近に起こりうる医療事故について知り、予防策について学ぶ 宮崎医療センター病院 医療安全管理室副室長 黒田伸一

5. 受講者の状況

① 受講者：5名

(未就業者 5名)

② 取得看護免許

看護師 5名

③ 年齢：25～56歳 (平均 44歳)

年代	受講生数	構成比
～29歳	0	0%
30～39歳	2	40%
40～49歳	1	20%
50～59歳	2	40%
60歳以上	0	0%

④ 看護職経験年数：1年～10年（平均7.1年）

経験年数	受講生数	構成比
1年未満	0	0%
1～5年未満	1	20%
5～10年未満	3	60%
10～20年未満	1	20%
20年以上	0	0%

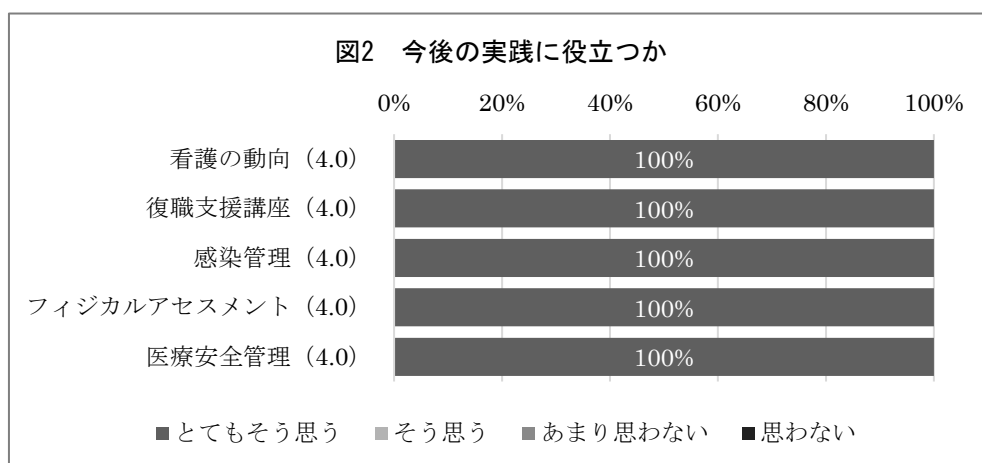
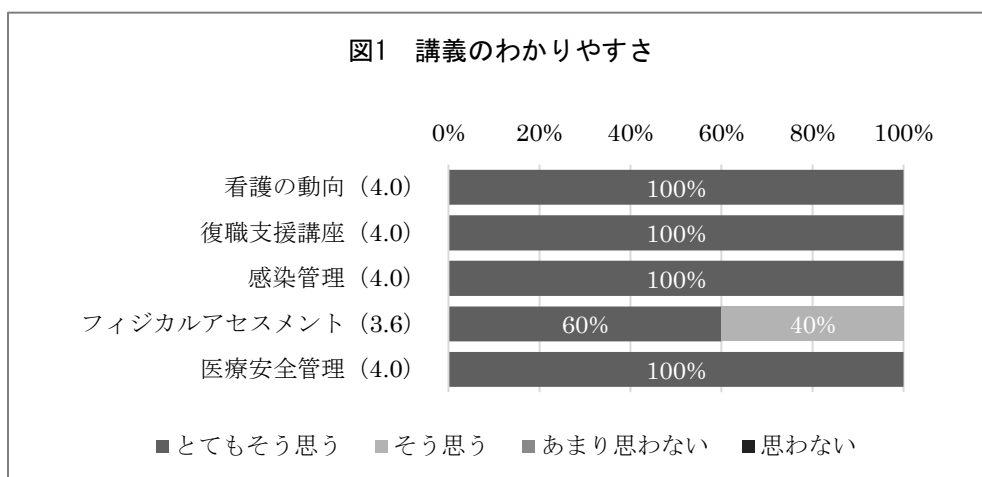
⑤ 未就業者5名の最終離職(または免許取得)から受講までの期間(ブランク期間)
4年～25年（平均13.4年）

ブランク期間	受講生数	構成比
1年未満	0	0%
1～5年未満	1	20%
5～10年未満	1	20%
10～20年未満	1	20%
20年以上	2	40%

6. 結果

各講義について、＜理解度（わかりやすさ）＞＜今後の実践に役立つか＞について4段階評価尺度と自由記述方式によるアンケート結果で示した。

【1】各講義のアンケート結果



【2】自己紹介・意見交換

1) 内容

(1) 目標

受講生間の交流を深め、再就業への意欲をさらに高める

(2) 内容

- ・ アイスブレイクと受講生自己紹介
- ・ 意見交換

【3】受講しての感想

- ・ 看護師時代には何度かここへ研修に来ました。その頃を思い出し、とても懐かしく思いながら、新鮮に感じました。勉強して、いつの日か現場に戻れたらいいなあ～と思います。
- ・ 離職してから使わなくなっていた知識を今回の講義を聞いて思い出すことができた。実際に働き始めるまでに学び直さないといけないことが沢山あると自覚した。
- ・ 参加者の皆さんと意見交換ができて、復職する上でも役に立つ情報がいただけました。心に元気がでました。
- ・ 復職に向けてとても温かくサポートしていただける事がわかりました。とても不安だったので少し安心しました。ありがとうございました。
- ・ 今日の研修に参加するのも、とてもドキドキでしたが楽しかったです。復職に対して不安が強かったのですが少し気が楽になりました。
- ・ フィジカルアセスメントの基本・医療事故防止の現状等、研修に来なければ知らなかったことだらけです。
- ・ フィジカルアセスメントは基本を学び、それぞれの観察の必要性がよく理解できました。医療防止は、チーム医療が大切であり、自分からチームワークがとりやすい状況を作る努力をしようと思いました。
- ・ 看護の基礎となるフィジカルアセスメントを改めて学べて良かった。実際に働く時に医療事故に常に隣り合わせであることを自覚して働きたいと思う。
- ・ 2日間の研修を通して参加して本当によかったです。学べるということはとてもありがたいです。今月中に仕事をしなければなりません、この研修に参加できたことで少なからず自信ができました。
- ・ 午後の講義では、チームワークがとても大事で視野を広げる事が大切ということがとても強く伝わってきました。フィジカルアセスメントでは患者さんをしっかりとみる、観察することが大事で数値などにとらわれないということを強く思いました。どちらも「思い込み」に気をつけないといけないのだと思いました。

【4】取り入れてほしい講義

- ・ 記録の書き方
- ・ 臨床で働く上で知っていた方がいい基本的な検査（血液）データ（高値・低値から考えられる疾患。基準値）や内服薬についての講義

7 まとめ

今年度から復職支援研修のプログラムに感染管理と吸引・口腔ケアを新しく入れた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により研修会場の借用が難しく「吸引・口腔ケア」の講義を行うことができなくなり、看護協会での2日間の実施となった。

広報は、情報誌、新聞、市町村広報誌、ハローワーク等で行った。研修の申し込みは、11名だったが、最終的に5名の参加となった。キャンセルとなったのは体調不良など様々な理由があった。

研修を開催にするにあたり、感染対策を行い実施した。受講者へは事前に感染対策に関する文書を送付した。

講義については、アンケート調査結果からも満足度の高い内容となっている。研修を受けることで心の変化も見られ積極的な意見も出ていた。

研修受講後、1か月以内で2人は就業が決まった。また、子育て中で就労時間に制限がある受講者には、検診や救護などの臨時雇用の仕事を紹介した。研修の受講により就業への意欲が高まったタイミングで就業支援のアプローチをすることは再就業の効果があると考えられる。